

MRSAと*Stenotrophomonas maltophilia* の院内分離状況と院内感染の 状況について

愛信会小倉到津病院

新田 勇樹、村谷 哲郎、井口達也、
村田智英、能智恵美、朔 晴久

COI 開示

発表者名：◎新田 勇樹、村谷 哲郎、井口達也、村田智英、
能智恵美、朔 晴久 （◎：筆頭発表者）

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

背景および目的

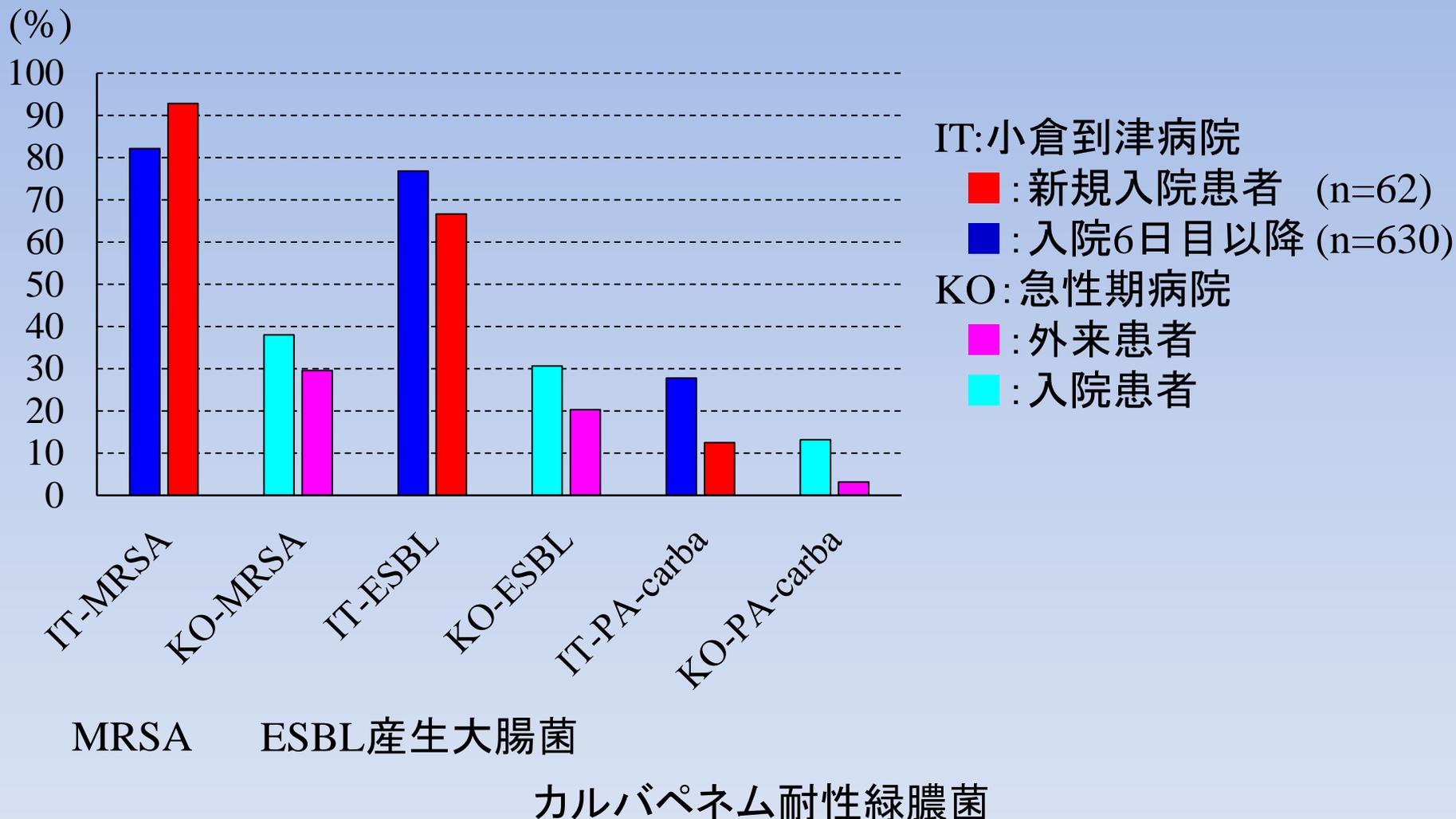
小倉到津病院は、特殊疾患病床53床、療養病床47床を有する施設であり、平均在院日数は440日(2023年)という施設である。新規入院患者のほとんどは急性期病院で抗菌薬療法を受けた紹介患者であり、耐性菌を保有している率が高い。

新規入院患者は年間60名前後であるため、全例入院時に監視培養を実施している。MRSA、緑膿菌、ESBL産生大腸菌の保菌率はいずれも40%を超えており、*Stenotrophomonas maltophilia*の検出率も高い。

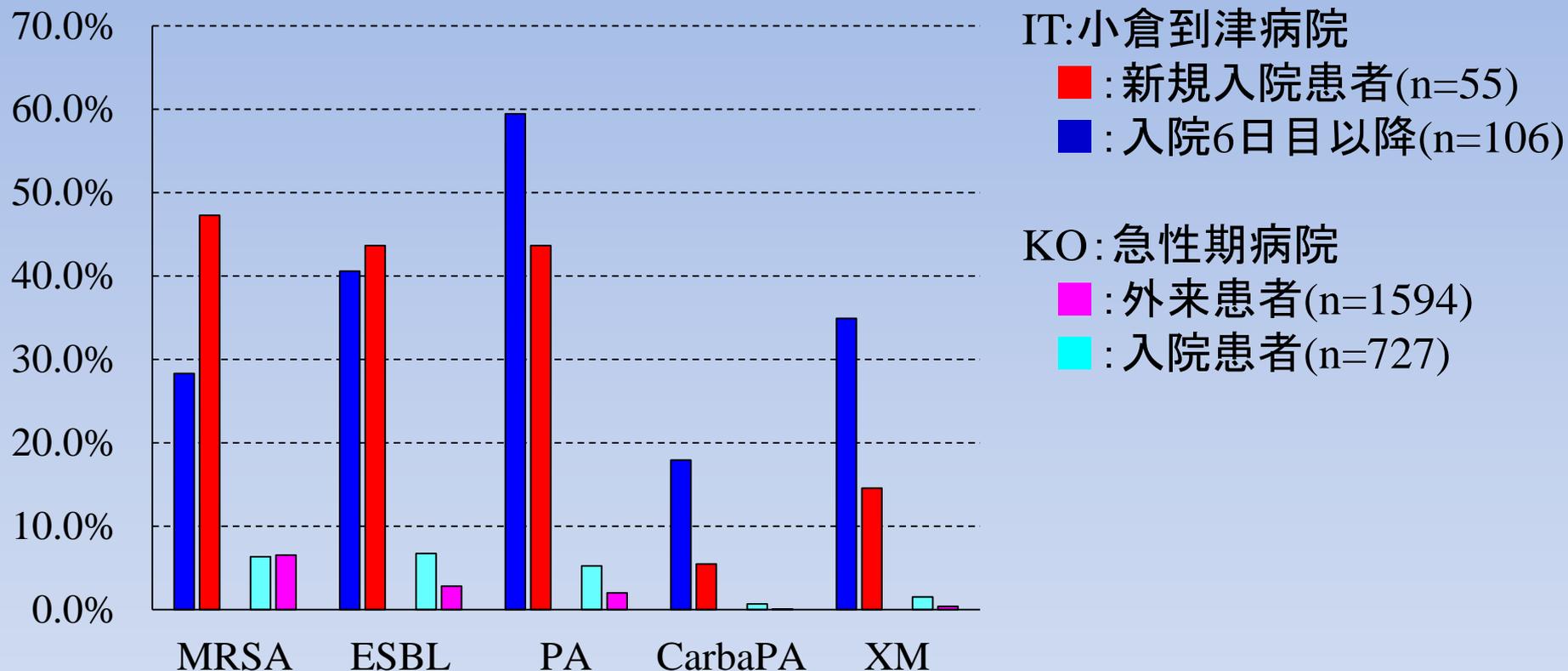
また、在院日数が長いことより、各種薬剤耐性菌が検出されるリスクは高く、持ち込みだけでなく、院内感染が起こっている可能性も考えられることから、感染対策委員会及びICTメンバーが中心となり、感染対策には力を入れている。

そこで、当院で分離頻度の高い菌種について、院内感染の状況を細菌学的に解析することとした。本発表では、MRSAと*S. maltophilia*について報告する。

耐性株の占める割合(2023年)



検査実施患者の微生物検出率(2023年)



MRSA	MRSA
ESBL	ESBL産生 <i>E. coli</i>
PA	<i>P. aeruginosa</i>
CarbaPA	Carbapenem-resistant PA
XM	<i>S. maltophilia</i>

材料および方法

2023年12月および2024年1月に分離されたMRSAおよび*S. maltophilia*を対象とした。クローンの同一性の検討については、MRSAは*Sma* I、*S. maltophilia*は*Xba* Iで切断した染色体DNAをパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)を用いて解析した。また、MRSAについては、PCRによるコアグラーゼ型別試験を実施した。

MRSA

19名27株 呼吸器 16名22株、便 3名3株、膿 2名2株、79.2才±13.3才 M/F 10/9
PFGE実施 17名18株

Stenotrophomonas maltophilia

17名21株、すべて呼吸器検体、73.6才±19.0才 M/F 11/6
PFGE実施 17名18株

MRSA

	在院日数	病室	性別	PFGE型別	コアグラマーゼ型	感受性パターン	同一株判定
1	195	401①	F	A	II	RRRRR	1
2	55	405①	F	B	III	RRRRS	
3	529	411①	M	F	III	RRRRS	
4	858	410①	M	G	II	RRRRR	
5	168	312①	M	A	II	RRRRR	1と同一
6	184	412③	F	C	VII	SRSRS	6
10	36	313③	F	C	VII	SRSRS	6と同一
11	114	405	M	B'	III	SSSSS	
15	0	317	M	D	III	RRSRS	
16	1	406③	F	D	II	SSSSS	
17	1	321①	M	E	II	RRRRR	
18	1	321①	M	E'	II	RRRRR	
21	445	313④	F	E''	II	RRRRR	
22	4954	325②	M	C	VII	SRSRS	6と同一
24	1508	407④	F	A	II	RRRRR	1と同一
28	21	416⑤	F	E'''	II	RRSRR	
29	45	403①	M	H	II	RRRRR	
30	366	301②	M	I	II	RRRRR	

感受性パターン

IPM \leq 8, S

CAM \leq 4, S

CLDM \leq 0.5, S

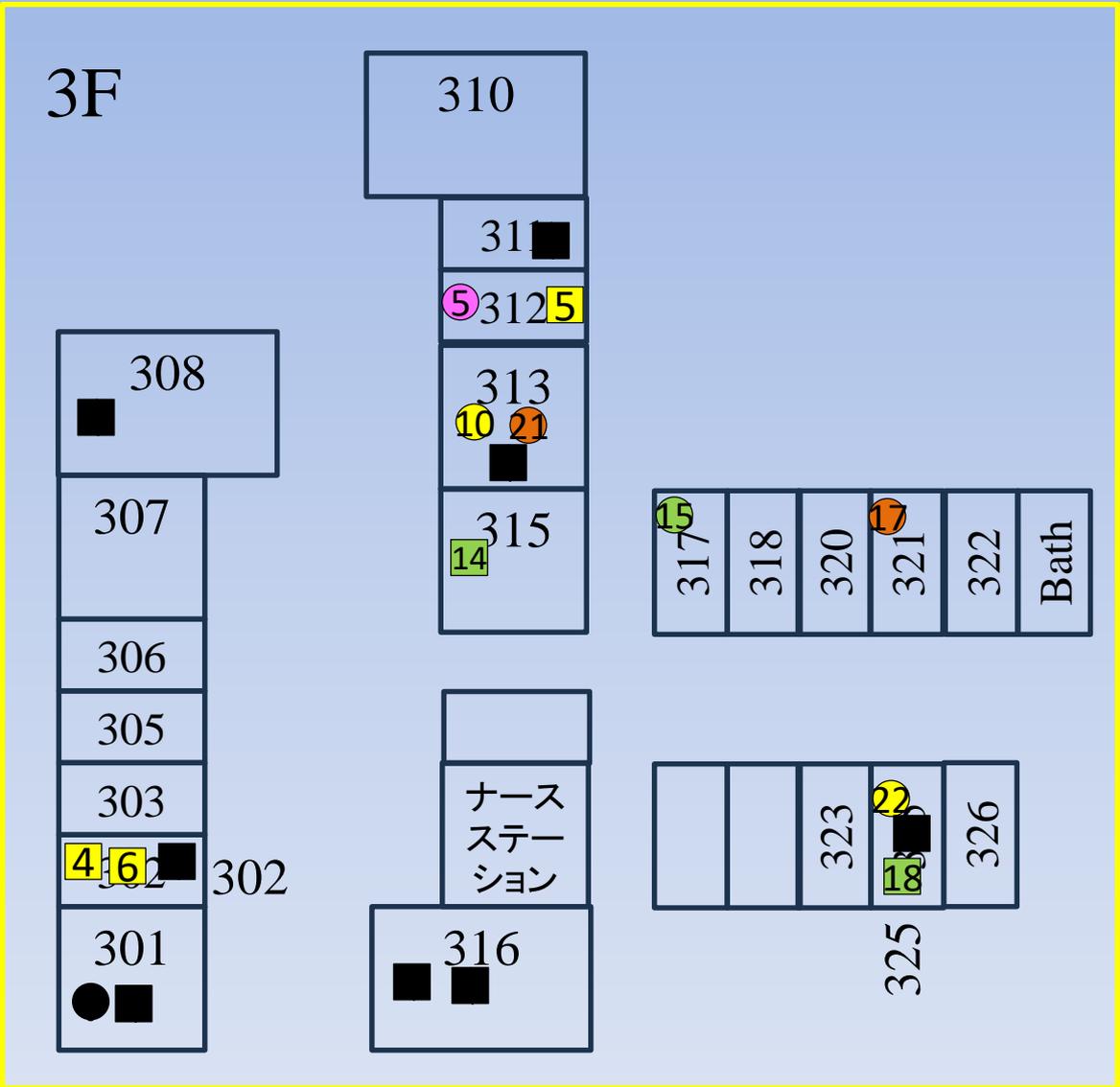
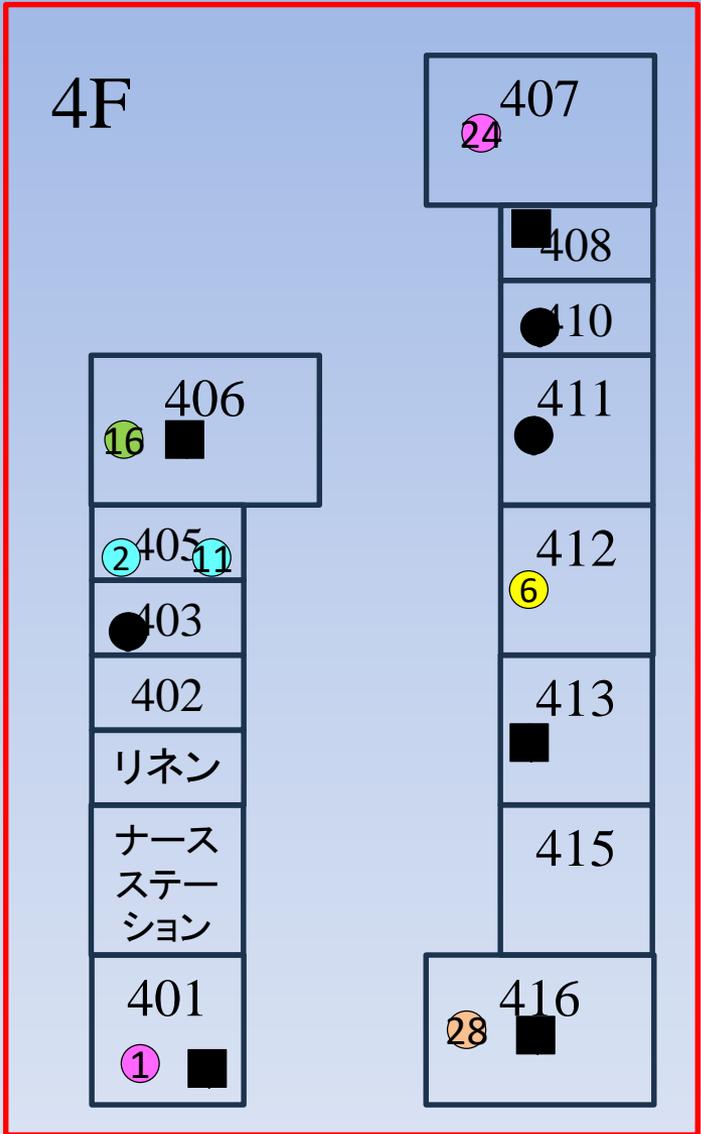
LVFX \leq 0.5, S

MINO \leq 2, S

Stenotrophomonas maltophilia

No.	在院 日数	病室	性別	年齢	PFGE 型別	感受性 パターン	同一株判定
1	528	413	M	75	C	RRRRR	
2	320	408	M	89	D	RRSRR	
3	4807	316	F	37	E	SSSSS	
4	1840	302	M	80	A	RRSSS	
5	167	312	M	73	A'	RRSRR	5
6	75	302	M	46	A'	RRSRR	5と同一
7	193	401	F	84	F	RSSSS	
8	5471	308	F	91	G	SSSRR	
9	575	325	M	44	H	RRSRR	
10	0	316	M	86	I	RRSSR	
11	1	416	F	77	J	RRRRR	
12	1872	302	M	80	K	RRSRR	
14	2369	315	M	70	B	RRSRR	14
17	444	313	F	91	L	RRSSS	
18	4953	325	M	44	B	RRSRR	14と同一
19	162	301	M	97	M	RSSRR	
20	42	406	F	83	N	RRSRR	
21	0	311	M	85	O	RSSRR	

感受性パターン
 CAZ \leq 8, S
 CPZ/SBT \leq 16, S
 LVFX \leq 2, S
 GM \leq 4, S
 AMK \leq 16, S



● : MRSA、■ : *S. maltophilia*

院内感染が疑われる株
 ● 3名、● 3名、■ 3名中2名、■ 2名

考 察

MRSAについては、2組それぞれ3名から分離された株が、院内感染による株であると考えられた。どちらも3F病棟と4F病棟にまたがっており、同一病棟の患者についても病室は離れていた。

*S. maltophilia*については、2組それぞれ2名から分離された株が院内感染による株であると考えられた。いずれも3F病棟であり、病室は離れているもののスタッフを介し感染した可能性がある。

当院の*S. maltophilia*の分離率は急性期病院と比べて明らかに高いが、院内感染により広がっているのではなく、ほとんどは患者独自の株であることが示された。

MRSA、*S. maltophilia*とも特定のクローンによる大規模な院内感染は起こっていなかったが、院内感染によると考えられる株が存在したことより、手指消毒等感染対策のよりいっそうの徹底を図っていきたい。